

原理事長

「工法選定に 環境配慮の視点を」

ミラクルソル協会が総会



ガラス廃材を再資源化した新素材「ミラクルソル」の土木工事などでの活用を推進するミラクルソル協会(原裕理事長)は8日、第20回総会を東京都内で

開き、2019年度の事業計画などを決めた。あいさつに立った原理事長は、頻発する土砂災害への事前対策の必要や、工法選定での環境配慮の視点の重要性を強調、ミラクルソル工法の積極的な情報発信を会員に呼び掛けた。

原理事長は平成の時代を「地震や水害、土砂災害などが頻発した災害の時代だった」と振り返った。そして地球温暖化を背景に令和の時代も災害が続くと述べた。特に土砂災害に関して、経年に伴って地盤の脆弱(せいじやく)化が進む問題を指摘。事前の対策と、工法選定での環境配慮

を訴えた。

同日決定した事業計画には、技術講習会の開催をはじめ、官公庁やコンサルタントへの工法普及活動などを盛り込んだ。

総会に続き、国土交通省水管理・国土保全局砂防部の岡本敦保全課長が「最近の土砂災害の特徴と砂防事業における生産性の向上」をテーマに特別講演を行った。